

平成20年度第2回 函館市観光アドバイザー会議 会議録

- 1 日 時 平成21年3月25日(水) 13:30~15:20
- 2 場 所 函館市勤労者総合福祉センター
- 3 参集者 番匠座長, 星野部会長, 根本部会長, 松木委員, 折谷委員,
二本柳委員, 沢村委員, 河内委員, 丸藤委員, 鎌鹿委員, 阪口委員
(11名出席)
報道機関(函新)

4 内 容

(1) 開 会

(2) 座長挨拶

(3) 報告事項

- ・コンベンション先進事例調査結果について
- ・平成21年度の観光関連予算について
- ・その他について

(4) 討 議

番匠座長

- ・事務局からの報告事項や, コンベンション調査に関することについて皆様のご意見をお聞かせいただきたいが, まずは, コンベンション先進事例調査に同行した星野委員から感想などをお聞かせ願いたい。

星野委員

- ・特に印象深かったのは, コンベンション誘致に必要な誘致体制や, 実際に開催の際のサポート体制については, 両市ともに函館よりはるかに進んでいること。
コンベンション協会の場所が, 町の真ん中のビルの中にあり, かなり広いスペースがとられており, このことから見ても, コンベンションに対する力の入れ具合が相当大きいことが, 明らかである。
コンベンション誘致に力をいれるのであれば, 函館国際観光コンベンション協会における予算の使い方も, 抜本的に考え直した方がよいのではないか。
・函館市の開催補助金予算は, 平成21年度に300万円ということか。

事務局

- ・当該予算は、新設したものである。従前から、函館市大会補助金として、各コンベンションを所管する部局が必要年度に予算要求し対応してきているが、コンベンションの開催は、かなり前から決まっているものもあれば、直前に決まるものもあり、今回の300万円は、短期間で函館での開催が決まったものに対応する補助金として新たに用意したものである。

星野委員

- ・予算額が、熊本の開催補助金は2,500万円であり、函館と比べ相当大きな開きがある。主催者がコンベンションの開催について考える場合、いくつかの候補地の中から、様々な条件を相対的に比較し開催地を決める。その際には、補助金の額が開催を決定する決め手となる場合がある。函館でも決め手を持っているかどうかを関係者が認識しているかどうかの問題。組織やサポート体制を含めて思い切った施策も必要ではないだろうか。

番匠座長

- ・それぞれの都市で、コンベンション誘致に関する取り組み方、意気込みが函館とはずいぶん違うように感じる。
具体的なコンベンション開催の情報があるならば、こちらから積極的に、受動的ではなく能動的に働きかけなければならない。全市一体となって取り組むということが函館には足りない。
- ・次に事務局から報告された事項や、コンベンション調査の星野委員の感想を含めて、他の委員の皆様からのご意見をいただきたい。

根本委員

- ・まちづくりに関する取り組み全般で、力が分散化している。観光も一つの産業として位置づけられているにも関わらず、関係者の連携が希薄な面があるのではないだろうか。
- ・コンベンション施設に関する議論においても、市民体育館は体育館の機能だけでいいのか、コンベンションの動きと関連して考えるべきか、そうした議論の方向付けの整理がされていない。

丸藤委員

- ・移住者の受け入れに取り組むことになったが、地域の全ての産業に関わることなので函館全体で考えなければならないと感じている。観光に関して同様に、自分のところだけではなく街全体のことを考えるべき。
民間事業者は、行政や他人頼りではなく、自分達で戦略を練って、できる

ことは積極的に取り組み，ビジネスに繋げていかなければならない。

折谷委員

- ・北海道の広さ，周遊しやすさといった特性を活かして，外国人ドライブ観光客にも対応した移動しやすい仕組みづくりを考えていく必要がある。
- ・若者達の感覚や時代を読み取る力を生かせる場づくりや，市の将来を考える上で若者を巻き込んで意見を聞ける場づくりが必要。また，彼らの力を融合するような場があれば，力を結集させたより良い活動ができると思うので，そのような場づくりに取り組んでいきたい。

番匠座長

- ・函館の気風として，活発に動かなくても何とかなるという特性があり，積極性に欠けるし，若者が活発に議論し，活躍するムードは出来ていない。今後のことを考えると，そのようなムード作り，場づくりは重要だろう。

二本柳委員

- ・いろいろな団体でまちづくりのための活動をしているが，活動を進めていくと自分たちの取り組みが函館をより良い方向に変えているのか，次第に疑問に感じてくるのが正直なところではないか。
- ・将来のビジョンを掲げ，色々な団体が同じビジョンに向かって活動することによって，力を結集できるのだが，現状はできていない。
- ・韓国人観光客実態調査の中にあるが，食に関する満足度が低いという結果を考えると，新鮮な海産物というイメージにあぐらをかいて，将来のグランドデザインが描けていないということではないだろうか。関係者が集まって，将来のグランドデザインを描くことが必要だろう。
- ・コンベンションに関しては，本来コンベンション協会が果たすべきコンベンションビューローの機能が不足している。受け入れて精一杯で，営業活動やプレゼンが出来ておらず，市の観光コンベンション部が担っているような状況にある。本来，コンベンションビューローの営業担当者というものは，何十年もその業務に力を注ぎ実績を積み上げるものであり，函館でもコンベンションビューローの機能を確立するために，専任の職員を民間などから受け入れるなど，しっかりとした体制づくりをするべき。
- ・施設面では大ホールは必要ないと考えている。コンベンション専用ではなく，市民も使える4～5千人が入る箱，つまり多目的なホールが必要だと思う。
- ・市民体育館とは一緒にはできない。体育館は体育館の機能だけでよい。

- ・場所に関しては，街中で交通の便がよいところ，ホテルの近くがよい。本
当の意味の函館の中心市街地がどこかを決めて，そこにコンベンション施
設を建てるべきだろう。

阪口委員

- ・開港150周年事業に関して，もう少ししっかりとした事業で，大きくま
とまればよかったと感じている。
今後，新幹線の新函館駅開業などで観光客の増加が見込まれる機会がある
ので，その際にはもっといろいろな関係者がまとまった活動をして，地域
全体の大きな動きにするべき。観光客がたくさん函館を訪れて，地域にお
金を落としてくれるような仕組みを考えていかなければならない。
- ・不景気な経済状況を考えると，遠くに旅行に行くことは考えにくく，平成
21年度の新規予算事業にあるような道央圏や青函圏からの誘客事業は効
果的だと思う。

番匠座長

- ・年金生活者の層が，今一番安定しているのではないか。小旅行なら行ける
といったゆとりがあると思う。

鎌鹿委員

- ・冬の八甲田地域は，非常に韓国人が多い。ニセコよりも八甲田のようだ。
韓国人観光客実態調査の結果にあるが，自然景観のような風光明媚なとこ
ろを求めて函館を訪れてくれているのは大変良いことだと思う。知る楽し
み，好奇心を駆り立てるような魅力が函館にあるということだと思う。
- ・インターネットなどで情報やメッセージを流しているが，人のつながりに
広がっていったいないのが残念。市民1人1人の当事者意識が少ないこと
から，これからは人づくり，ものづくりにきちんと光をあてて，目先のこ
とでなく，遠くを見つめていかなければならない。
- ・新規予算事業のアイディアは，専門家に相談してつくるべきではないか。
縄文センターの設置についても感じているが，地域の関係者と連携して作
り上げていくことが，本当のもてなしに繋がっていくのではないか。

事務局

- ・市において新たな事業を予算要求する際には，観光アドバイザー会議での
意見を踏まえ，各職員がアイディアを持ち寄って作り上げている。予算編
成は，内部的に扱わなければならないが，事業を実施する際には，より良
い事業とするために，さまざまな関係者の意見を聞きながら進めていく。

沢村委員

- ・ 函館は観光関連の会議が毎日のように開催されるほど、観光に熱心な取り組みをしているが、なかなかまとまった活動にならず分散している。それをまとめることによって、もっと良い結果がでてくると思う。
- ・ 函館が本気でコンベンション誘致に力を入れて取り組もうとしているのかわからない。沖縄のコンベンションビューローを例にとると、職員は100人以上おり、予算的にも大きく、規模が全く違う。力をいれて取り組むためには、予算的な裏づけがないと進まないのではないか。
- ・ コンベンション施設については、一定程度整備されたものは必要。旭川や釧路に関しては、函館よりもコンベンションの開催が多く、一定規模の施設を持っている。それらと比較すると函館の今の状態は厳しい。
- ・ 今回の視察報告書にある内容で、すぐに取り組めることはできるだけ早く手をつけることが大事である。

河内委員

- ・ 観光の直接予算は、全体で3億円程度だが、関連する予算も考えると10億円くらいあると聞いている。観光行動による経済波及効果は1,200億円程度といわれているが、農林水産分野と同じくらいの消費効果があるのではないか。そう考えると、10億円というのは、まだまだ低い予算ではないだろうか。
観光に関連する予算全体がどのようになっているのか、改めて検証して見る必要があるように感じている。基幹産業といわれる観光だが、市民にとって、函館の観光がどの程度売り上げがあり、どのように自分たちの生活に反映されているのか感じとれていないように思う。
- ・ コンベンション協会の事務所を、市の観光コンベンション部に置けば、情報共有もできて良いのではないか。
- ・ イギリス領事館側の観光駐車場は、いつも空いているように思う。例えば喫茶や売店で買い物をした場合に駐車場を無料や半額にするなど行くと、売り上げも駐車場の利用者も増えるのではないか。民間では当然の考え方だが、仮に行政においてルールがあって実現できないものであるならば、ルールや仕組みを変更するなど柔軟に対応し、新しいことをするべき。
- ・ 観光ターゲットとしては、熟年層や高齢の方をターゲットにした観光戦略を立てるとよいと思う。

松木委員

- ・ホスピタリティ意識の向上は、なかなか難しいと感じている。若い人を集めて意識向上のための取り組みをしているが、気持ちを保ち続けることが大変難しい。
- ・コミュニティビジネスで頑張る若い人達が、次のビジネスに展開出来るような枠組みができれば良いと感じている。

番匠座長

- ・コンベンションについては、新たな施設に関する議論はさておき、まずは誘致の実績づくりが非常に大事である。重ねた実績を踏まえて、函館においてはどの程度の規模の施設が必要であるのかという議論をするべき。
- ・函館には大規模な商店街が無い。すなわち、街の中心がないということ。駅前が中心市街地と位置づけられているが、他都市の商店街と比べると賑わいが無い。この現状を踏まえて、中心市街地の核となるものとして、コンベンション施設を作るということも一つの方策として考えられる。

鎌鹿委員

- ・函館のみで観光を考えるのではなく、道南や青森を一带として周遊してもらうことを考えていかなければいけない。
- ・森町の遺跡や今金町の遺跡と連携し、石器時代から縄文時代といった歴史を体感しながら周遊することも考えられる。函館だけのことだけを考えるからクリエイティブな考え方ができなくなっている。
- ・開港150周年事業の動きでは、イベントが終わって燃え尽きてしまうのが、これまでの函館。それを、五稜郭奉行所のオープンまで引き伸ばすのが本来のやり方だと思う。
- ・コンベンション施設に関しても、新しいものをつくることだけを考えずに、今あるものでどのように対応出来るのかを見つけることが大事である。

番匠座長

- ・様々な観光関連の会議をまとめるのに、観光アドバイザー会議がその役割を担ってはどうか。

事務局

- ・渡島檜山管内全体で、観光関連の会議が複数あるが、それらの会議の集約に向けて「道南観光戦略会議」が中心となって動き出している。

星野委員

- ・コンベンション事例調査地の施設は、市民も利用できる使い勝手のよい施

設となっており大変混み合っていた。函館においては、今の市民会館をリフォームして、コンベンションのみではなく、市民も利用出来る施設として、使い勝手の良いものにつくり変えることも考えられるのではないかと。新築するだけでなく、今あるものを改築して使用するなどいろいろな工夫ができるのではないだろうか。

- ・新規予算事業だが、PRに関する予算はたくさんあるようだが、インフラ整備に係る目立った予算がない。外国人用のマップや外国語表記など、外国人向けの情報環境を整える予算が入っていない。PRだけではなく、函館に来た観光客の満足度を上げるための取り組みが必要ではないか。
- ・体験観光や、個人観光客向けにいろいろなプログラムはあがっているが、それを支える人材はどのように考えているのか。ボランティアガイドについても、その養成、拠点作りといった視点が欠けているのではないかと。観光客が減少し、地域間競争が厳しくなる中では、満足度が低い観光地からふり落とされてしまう。函館におけるインフラ整備がしっかり出来ているのか検証が必要だろう。

事務局

- ・外国人用マップは用意し、各所に配布しているが、末端の必要なところに行き届いているのか、必要部数が確保されているかということについて把握に努めたい。
- ・外国人受け入れにかかる人材育成については、観光客が接するなかで重要な位置にあるホテルのフロントの方々を対象に、ハングル語のホスピタリティ講座を実施した。今後、内容のレベルアップや、対象者も拡大した取り組みを進めたいと考えている。観光関係者の方々には適宜案内したうえで、各種の取り組みを行っているということをご理解いただきたい。
- ・平成21年度の地域雇用創造推進事業において、ホテルやレストランの方を対象とした人材育成事業を実施する予定で進めている。
- ・ボランティアガイドについては、各団体と意見交換を行いながら、連携を強化しているところであり、人材不足に対応するため、はこだて検定の合格者を対象とした研修の場において、ボランティアガイドの活動内容などを伝える機会を設けるなど、相互交流の場を作っている。
- ・ガイドの拠点作りについては、ボランティアガイドや観光協会とも連携しながら、検討を深めていきたい。

河内委員

- ・「はこだてドライブ&イート」事業は、北海道の特性が活かされており、ドライブをしながら食べ歩きが出来るということで大変好評を得ている。北海道は特殊な地域といえるが、その特性を活かした取り組みをこれからも考えていくのが良いだろう。

丸藤委員

- ・外国人観光客対応のネット環境整備について、外国人が困ったときに、本当に欲しい情報を得られるように、利便性の高いトップページを用意するなど、すぐに情報を確認できる仕組みを構築しておくことが重要。

星野委員

- ・函館観光情報サイト「はこぶら」は、外国語対応が出来ているのか。平成20年度はどこまで構築することを目標としているのか。

事務局

- ・当該サイトに関しては、運営会議が設置されており、その中で整備スケジュールを作成したうえで、順次取り組みを進めている。
- ・現状は、観光情報を中心に内容の充実を図っており、外国語対応が十分でないところもあるが、さらに充実した内容になるように努めたい。

番匠座長

- ・一通り各委員の皆さんからご意見を頂いたところで、本日の会議はこれで終了したい。大変ありがとうございました。

事務局

- ・観光アドバイザー会議に関するこれまでの会議録等をホームページで掲載することについて、承認いただけるか。(委員了承)
- ・今後のアドバイザー会議の開催について、例年は新年度予算編成前、予算が確定する年度末の2回の開催で進めてきたが、平成21年度からは5月か6月を目処にさらに1回開催回数を増やし、当該年度事業についての進捗報告と、事業推進にあたって委員の皆さまの意見を伺う機会を設けたいと考えているのでよろしく願いたい。

本日は長時間にわたってありがとうございました。

(会議終了)